

## 血中アンモニア検体のご提出についてのお願い

謹啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

血中アンモニア値は採取から検査までの保存条件によって大きく変化いたします。そのため「総合検査のご案内」のアンモニア(P13)の備考欄には、「専用容器(除蛋白液 4.0ml 入)に正確に 1.0ml の血液を加え、十分混和した後、遠心分離後の上清 2.0ml を凍結し、ご提出ください」と注記させていただいております。

遠心分離は 3000rpm(または 1500G)で 5 分間となっております。遠心分離後の上清の分注・凍結は No.02 汎用容器をご使用ください。

正しい検査結果を得るためには大変重要な処理となりますので、なにとぞご了承くださいますようお願い申し上げます。

裏面に保存条件による変化の検討結果を付記いたしましたので、ご一読くださいますよう重ねてお願い申し上げます。

謹白

裏面もごらんください



## 記

血中アンモニアの採血後の変化について下記のような検討結果が得られました。

1. 職員 1 名から採血し、採血後の処理条件を変えて分析しました。保存条件は専用容器 (No.05 除蛋白液 4.0ml 入り) に血液を入れて混和した後の条件になります。

採血後の処理が検査結果を大きく左右しています。

測定前の保存条件		分析値 平均 $\mu\text{g/dl}$	条件 1 を 100%として
条件 1	10 分後に遠心して上清を分注し、 $-20^{\circ}\text{C}$ の冷凍庫に 6 時間静置	45.5	100%
条件 2	10 分後に遠心して上清を分注し、 $5^{\circ}\text{C}$ の冷蔵庫に 6 時間静置	48.5	107%
条件 3	10 分後に遠心して上清を分注し、 $25^{\circ}\text{C}$ の室温に 6 時間静置	63.5	140%
条件 4	10 分後に遠心して上清はそのまま $5^{\circ}\text{C}$ の冷蔵庫に 6 時間静置	52.0	114%
条件 5	10 分後に遠心して上清はそのまま $25^{\circ}\text{C}$ の室温に 6 時間静置	77.0	169%
条件 6	遠心せずに $5^{\circ}\text{C}$ の冷蔵庫に 6 時間静置して測定直前に遠心分離	62.5	137%
条件 7	遠心せずに $25^{\circ}\text{C}$ の室温に 6 時間静置して測定直前に遠心分離	93.0	204%
条件 8	遠心せずに $30^{\circ}\text{C}$ の室温に 6 時間静置して測定直前に遠心分離	108.0	237%

2. 職員 5 名から採血し、除蛋白液と混和してただちに遠心分離したものと、除蛋白液と混和後に室温に 2 時間静置してから遠心分離したものを比較しました。

遠心分離せずに室温に静置すると検査結果は上昇します。単位  $\mu\text{g/dl}$

	ただちに遠心分離	室温 2 時間放置後遠心分離
検体 A	97	129
検体 B	53	84
検体 C	49	90
検体 D	77	159
検体 E	49	106

3. 職員 1 名から採血して、除蛋白液と混和してただちに遠心分離して上清を分注して  $5^{\circ}\text{C}$  で静置したもの(条件 A)と、遠心分離せずに  $5^{\circ}\text{C}$  で静置したもの(条件 B)の経時変化を検討しました。遠心分離しても上清を No2 汎用容器に分注しなければ  $5^{\circ}\text{C}$  であっても時間の経過とともに検査結果は上昇します。単位  $\mu\text{g/dl}$

	採血直後	2 時間後	4 時間後	6 時間後	10 時間後	24 時間後
条件 A	69	68	71	72	72	76
条件 B	70	82	82	88	91	94